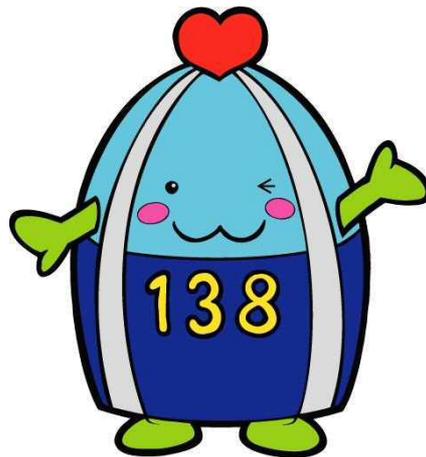


第2期一宮市国民健康保険データヘルス計画 (含 第3期一宮市特定健康診査等実施計画)



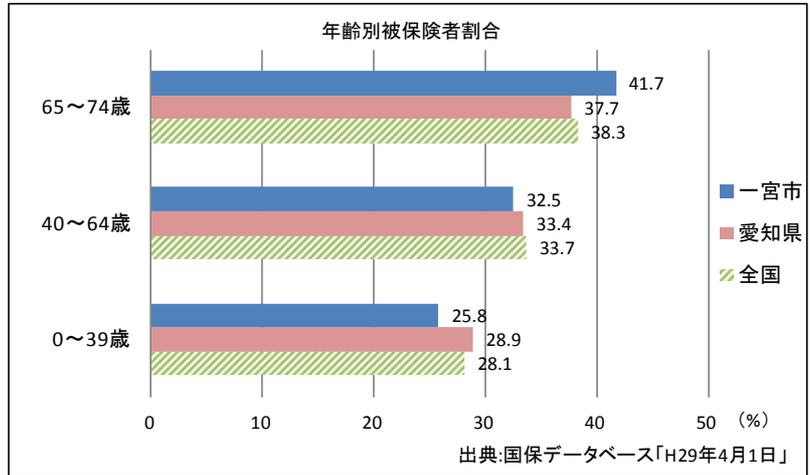
一宮市国民健康保険では、健診結果やレセプト等のデータを用いて保健事業を効率的・効果的に進めることを目的とした「データヘルス計画」と、特定健康診査および特定保健指導の具体的な実施方法を定めた「特定健康診査等実施計画」を一体的に策定しました。

計画期間は、平成 30～35 年度の 6 年間とし、事業を継続的に改善するための PDCA サイクル (Plan <計画> → Do <実施> → Check <評価> → Action <改善>) により運用していきます。

一宮市国民健康保険の現状

1 被保険者の年齢構成

一宮市国保の被保険者は、愛知県や全国と比べると前期高齢者（65～74歳）の割合が高くなっています。



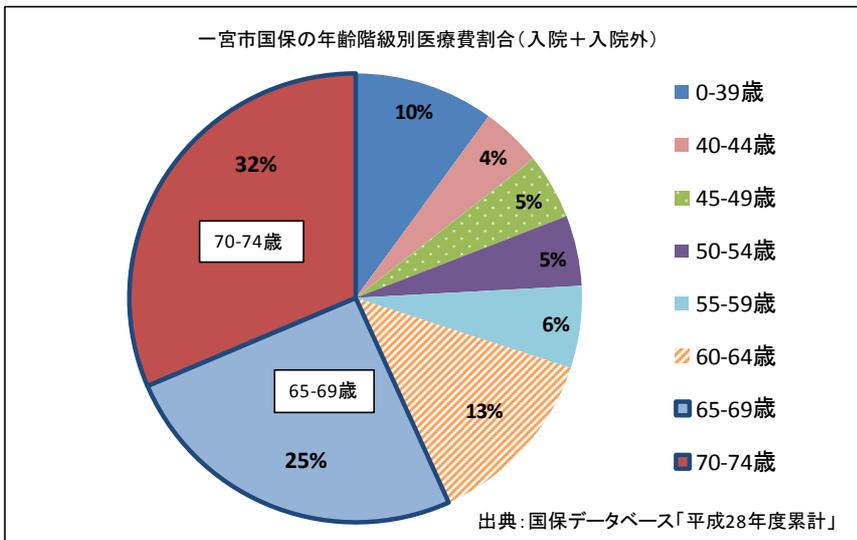
2 医療費の状況

1人当たり医療費

(単位:円)

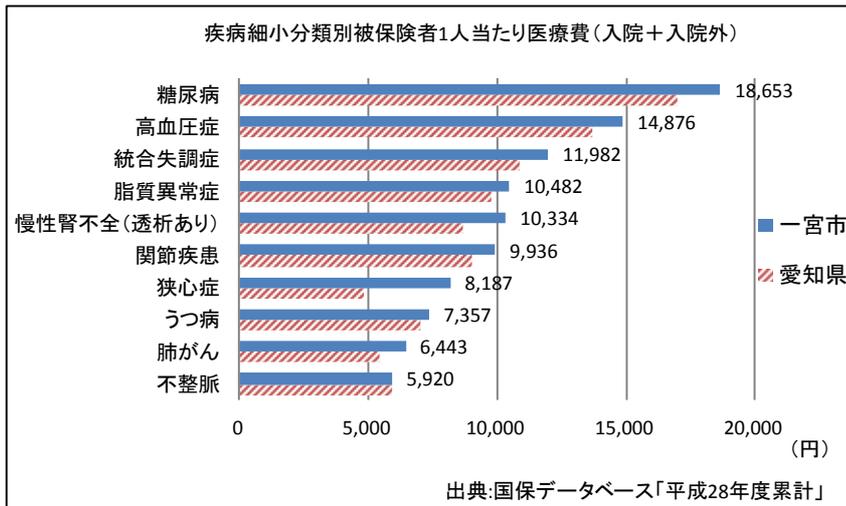
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
一宮市	292,191	298,433	303,998	320,020	328,802
愛知県	292,079	299,309	305,173	318,912	-
全国	315,856	324,543	333,461	349,697	-

出典:国民健康保険事業年報



1人当たり医療費は、年々増加しており、愛知県、全国も増加しています。

年齢階級別医療費割合をみると、65歳以上の医療費が57%を占めています。少子高齢化が進むと、この割合がさらに高くなると予想されます。



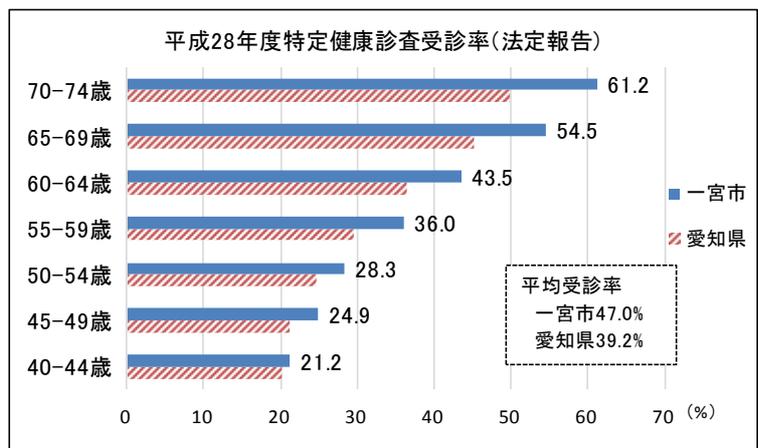
国保データベース (KDB) システムとは?
 健診・医療・介護等の各種データを活用して、統計情報等を作成するシステムです。



疾病細小分類別1人当たり医療費をみると、「糖尿病」や「高血圧症」など生活習慣病の医療費が高くなっています。

3 特定健診等の状況

平成28年度の特定健康診査受診率は47.0%で、愛知県の平均の39.2%と比べて高くなっています。年齢別にみると、40~59歳の受診率が低く、年齢が高いほど受診率は高くなり、愛知県との差は大きくなっています。



腹囲のリスク(男性 \geq 85cm・女性 \geq 90cm)がある人で、血糖・血圧・脂質の3因子がすべて有所見(服薬者含む)であった人の割合が愛知県や全国と比べて特に高く、県内60保険者の中では4番目に悪い状況です。

特定健康診査結果有所見の重複割合 (単位:%)

	一宮市	愛知県	全国
血糖・血圧	2.5(20)	2.5	2.7
血糖・脂質	0.9(35)	1.0	1.0
血圧・脂質	10.4(13)	9.1	8.4
血糖・血圧・脂質	8.0(4)	5.8	5.2

出典:国保データベース「平成28年度」

※有所見とは、健診結果で基準範囲を外れていることをいい、服薬者を含みます。

※腹囲のリスクがある人で、上記リスク(血糖、脂質、血圧)を保有した人の割合です。

※()は県内60保険者のうちの順位です。順位が高いほど状況が悪いこととなります。

一宮市国民健康保険の課題と保健事業

★目指すところ

『生活習慣病を予防、もしくは重症化させない。』

現状から見える健康課題	
①	被保険者数が減少傾向にある一方で、高齢化と医療費の高度化によって1人当たり医療費が増加傾向にある。
②	被保険者1人当たり医療費で、糖尿病、高血圧症などの生活習慣病の医療費が上位を占めている。
③	生活習慣病に係る受診者1人当たりの医療費が一般疾病に比べて高額となっている。
④	生活習慣病が重症化すると医療費が高額化することから、重症化させない取り組みが必要である。
⑤	40～59歳の特定健康診査受診率が低い。土曜日でも受診可能なことや生活習慣病予防の大切さを知ってもらうことが必要である。
⑥	3年以上連続して特定健康診査を利用していない健康意識の低い層が約43%存在する。メタボリックシンドロームに着目した健診を受診する必要性について、市民への更なる啓発が必要である。
⑦	メタボリックシンドロームは、予防の観点から、非該当・予備群の時期からの早めの対応が必要である。
⑧	血糖・血圧・脂質の危険3因子を合わせ持つ割合が高く、服薬している人も多い。健診は受けているが、必ずしも生活習慣の改善までに繋がっていない。また、危険3因子を合わせ持つ人は、疾病リスクも高く、重症化しやすいので、通院中の人も治療している病気以外に生活習慣病が発病していないか確認することが大切である。
⑨	腹囲のリスクがない高血糖の人の割合が高く、特に女性は50歳以降で、男性は65歳以降で高くなっている。保健指導の該当者にはならないが、血糖リスクが及ぼす影響などを周知する必要がある。
⑩	受診勧奨値以上の血糖リスクを保有している人の中に、糖尿病治療を行っていない層がある。とりわけ高血圧や脂質異常のリスクを複合している場合には、心疾患の発症危険度が上がるため、健診結果に基づく働きかけが必要である。
⑪	介護認定者の有病状況においても、生活習慣病の占める割合が高い。



保健事業	課題との関連
特定健康診査	⑤⑥⑦⑧
特定保健指導	⑦⑧
糖尿病重症化予防	②④⑧⑩
重複・頻回受診者等訪問指導(服薬含)	①
健康体操教室	⑧⑨
30歳代の人間ドック	⑦⑧
後発医薬品利用差額通知	①
がん検診	③④⑧
節骨検診(骨粗しょう症検査)	③④⑪
節歯周病検診	③④
女性のための健康診査	③⑦⑧
集団健康教育	③⑦
個別健康教育(禁煙サポート)	③
いちのみや健康マイレージ	⑤⑥⑧⑨
情報提供	⑤⑦⑧⑨

※太枠は重点をおく課題です。

特定健康診査・特定保健指導

1 特定健康診査

生活習慣病の予防や早期発見のための、メタボリックシンドロームに着目した検査項目による健診です。

40～74 歳の一宮市国民健康保険の被保険者を対象としています。

基本的な健診項目

- 問診 ●身体診察 ●身体測定（身長、体重、BMI、腹囲） ●血圧測定
- 血液検査（脂質、血糖、肝機能、腎機能） ●尿検査（糖、蛋白）

※平成 28 年度から血液検査でアルブミン（肝機能）・尿酸（腎機能）を一宮市独自の検査項目で実施



一定の基準の下、医師が必要と認めた場合のみ受診します。

詳細な健診項目

- 貧血検査 ●心電図検査 ●眼底検査 ●血清クレアチニン検査

2 特定保健指導

特定健康診査の結果により、腹囲やBMI の値が一定の基準を超える人に対して、高血圧・高血糖・脂質異常症や喫煙歴の追加リスク数に応じて実施する「動機付け支援」「積極的支援」といった指導です。

内容は、医師や保健師等による、運動や食事を中心とした生活習慣の改善支援です。

★目指すところ（目標値）

国の基本指針において、特定健康診査および特定保健指導の実施率の目標値は、『平成 35 年度時点において 60%』としていることから、これに準拠して各年度の一宮市の目標実施率等を設定しました。

	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度
特定健康診査の実施率	50%	52%	54%	56%	58%	60%
特定保健指導の実施率	30%	36%	42%	48%	54%	60%
特定保健指導該当率	11.1%	11.0%	10.9%	10.8%	10.7%	10.6%

※特定保健指導該当率は、特定健診受診者のうち、特定保健指導対象者の割合です。国の基本指針では、平成 35 年度までに特定保健指導対象者を 20 年度比で 25%減少するとされているため、平成 35 年度の 10.6%を目標値としました。（平成 20 年度特定保健指導該当率は 14.1%）

第2期一宮市国民健康保険データヘルス計画

(含 第3期一宮市特定健康診査等実施計画)

概 要 版

平成30年3月

発 行：一宮市

編 集：〒491-8501 一宮市本町2丁目5番6号

一宮市 市民健康部 保険年金課

TEL 0586-28-8669/FAX 0586-73-9133

一宮市 市民健康部 健康づくり課

TEL 0586-72-1121/FAX 0586-72-2056